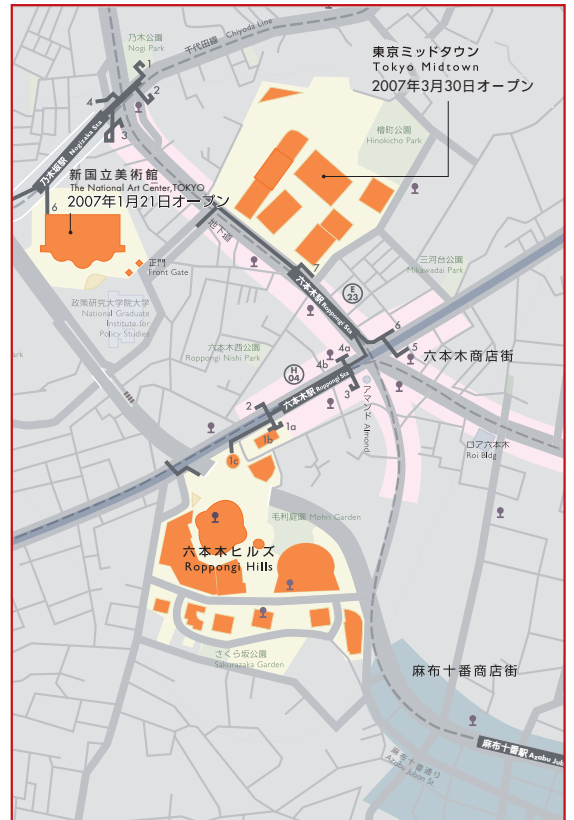


六本木ヒルズ 自治会ニュース

Roppongi Hills
Neighborhood Association News



VOL. 12 特集 新春座談会
Special Feature New Year's Roundtable Discussion



“新春座談会， 歴史と伝統、そして文化を抱きながら 生まれ変わる麻布・六本木エリアを語る

**話題のスポットがもうすぐオープン！
麻布・六本木エリア、変革の時！！**

歴史と伝統、そして豊かな文化が息づく麻布・六本木エリア。六本木ヒルズに続き、今年は東京ミッドタウンや新国立美術館のオープンなど、街はダイナミックに変化し続けています。今回は、麻布・六本木エリアのキーパーソン5人に、3月のオープンを前にした東京ミッドタウンのギャラリーにお集まりいただき対談を開催いたしました。進化をやめないこのエリアが描く未来とは果して…!?

**This spring new hot spots are opening one after another.
Change is in the air in Azabu and Roppongi!**

History, tradition and culture are alive and vital in the Azabu and Roppongi area. From this year's opening of Tokyo Midtown to the new National Art Center, our town continues to undergo dynamic change that began with Roppongi Hills. In this roundtable discussion, we have brought together five people who represent the Azabu-Roppongi community, Azabu Juban merchants, Roppongi merchants, Tokyo Midtown and Roppongi Hills to talk about the future of this area that cannot stand still and continues to evolve. While each community undertakes activities to enrich itself with new aspects, preserve what has long defined the area and add to its distinctive personality, the roundtable members confirmed a mutual desire and commitment to collaborate, cooperate and share know-how among the communities with the aim of making the entire Azabu-Roppongi town more attractive, safer and more secure.



新国立美術館 2007年1月21日オープン!
The National Art Center, TOKYO

東京ミッドタウン
2007年3月30日オープン!
Tokyo Midtown



“新春座談会” 歴史と伝統、そして文化を抱きながら 生まれ変わる麻布・六本木エリアを語る

今回の座談会に参加していただいた皆さん



原保
六本木ヒルズ自治会会長

須永達雄
麻布十番商店街
振興組合理事長

後藤謙
六本木商店街
振興組合理事長

辻慎吾
森山 棟副総経/タワマン/小澤室長/
六本木ヒルズ運営室室長

山本隆志
東京ミッドタウン(株)取締役
タウンマネジメント部長

New Year's Roundtable Discussion

文化都心を目指し 安全・安心な街づくりを

原：六本木ヒルズは“文化都心を作ろう”という目標を掲げて街づくりを進めてきました。はじめは文化って何だろう？ と考えることからスタートしましたが、映画館も文化だし、お寺だってレストランだって文化でしょう？ 今では、いろんな角度から街を変えていくことができる。いい目標だと思っています。こうして街が出来上がった今、自治会として世界一の心で皆さんをおもてなしたいという気持ちがあります。そのためには安全で安心して住み続けられる、またはお客様をお迎えられる、そのことが一番だと思います。この街に住む人、働く人、そしてもちろん六本木ヒルズだけの力では成り得ませんから、麻布・六本木の商店街や町会の皆さんとも仲良くお付き合いさせていただいて、もしもの時にはお互い助け合えるような、良い街をつくっていきたくと思っています。

商店街としての個性を強め 何よりも来てくださるお客様を大切に

須永：麻布十番商店街には江戸時代から続く伝統がありますが、新規の施設が周辺にできる中で、それに負けないように、あるいは利用しながら、商店街としてどうやって生き延び、さらに発展していくのか、ということを考えています。東京ミッドタウンは完成間近でもホットです。麻布十番はホットであると同時に、ほっとできる街づくりを目指したい。そのためには、顔の見える商店街でなければならぬと思っています。例えば、どの店の店員も、麻布十番のどこで何を売っているのか答えられるようできゃいけなく、とね。結局は隣近所の付き合いができること、人間関係が大切なんだと思います。六本木ヒルズの原さんと、アナログ的なお付き合いができるのも私はうれしい(笑)。もちろん、商店街内外の連帯だけでなく、何よりも麻布十番にいらしてくださるお客様を大切にしてほしいとも思います。また、最近、子どもたちが通う学校から地域とのつながりを求められるんです。そういった声を聞くと、安全な街づくりや暮らしやすい環境への思いは深まります。

文化的背景を大切に 独創的な街づくりを

後藤：六本木は文化的背景の濃いエリアです。門前町として賑わい始めたところから、武家屋敷が立ち並びようになり、明治には軍隊の街へと変化しました。終戦後は進駐軍がベースを置き、外国文化が流れ込んだんですね。放送局が近いこともあり、文化人などがたくさん集まる個性的な街になった。その延長線上に、今日があるわけです。豊かな国際性や文化性を持つ反面、それに起因するトラブルが起きたり、安全性を問われたりすることもあります。3年目を迎えた「防犯パトロール」や、10年間続いている「きれいな会」の清掃活動などに努めていますが、継続性が大切だと感じます。また、人が集まることは良いことですが、通過するだけで終わらず、回遊性を高めることが大切です。近頃は、各国の映画祭が開催されるなど映画文化との関わりが深まっており、美術や映画、演劇といった芸術に触れ合う施設も充実してきています。創造的な精神を大切に、独創的な街づくりに取り組んでいきたいと思っています。



コミュニティの視点と 世界に向けたグローバルな視点を併せ持つ

辻：六本木ヒルズでは、どんな街づくりをすべきか？ ヒルズらしさとは何か？ というのをずっと考えてきました。麻布・六本木という歴史も文化もあるエリアの中で、そして東京、日本というもつと大きな位置づけの中で何を指すべきかと。文化都心というコンセプトの通り、文化は街の大きな軸です。それから世界と開かれた関係を築いていくグローバルという軸。安全・安心は最も基本的なテーマですし、コミュニティも作っていきたく。いつも文化的な刺激があって、世界から様々な人が集まり、新しいアイデアが生まれ、新しいビジネスが育っていく。そんな街を思い描きながら、今は、それをどう街の運営に落とし込めるかと日々挑戦しています。一方で地域の皆さんと連携できる機会も増えて、須永さんや後藤さん、山本さんとも、麻布・六本木をどうしていくんだという議論をさせていただいています。ミッドタウンさんが出来てますます注目され、エリアとしても広がっていく中で、ヒルズとしての個性を作り続けながら、エリアの中での役割を担っていきたくですね。

地域に根ざした 親しみのある個性的な街に

山本：東京ミッドタウンは3月30日にグランドオープンするわけですが、近くに六本木ヒルズさんというお手本があり、色々なことを学ばせていただきました。世間では「ヒルズ対ミッドタウン」という見方をされることが多いですが、まずは注目されるのはいいことかなと。これだけ大規模な再開発が近接するというのは例がないですし、六本木や麻布十番の商店街の方々、近隣町会の方々とも一緒に色々なことに挑戦させていただきたいと思っています。我々の基本理念をまとめた憲章の中に「世界の一員として、また地域の一員として社会に貢献します」という行動基準を掲げています。オフィスだけでなく、人が住み、憩える場所、色々な要素がある街にしたい。ダウンタウンでもなく、アップタウンでもないという思いからミッドタウンという名前をつけています。ここは、防衛庁跡地ということもあり、元は住人のいない土地でしたが、新しく来る方々と自治会組織も立ち上げていきたくです。本当の意味で地域に根を下ろし、親しみの持てる街にしていきたいと思っています。

麻布・六本木の地名力

辻：麻布や六本木って、昔から名前が立っていてブランド価値が高いですね。特に、原さんや商店街の皆さんは昔からいらしたということもあり、愛着もひとしおだと思います。その街の今後について、聞いてみたいのですが。

須永：麻布という町名には愛着がありますね。地下鉄の駅の名前を決めるときも、営団が最初に持ってきたのが「麻布」で、商店街でも地域でも迷いました。結局「これから麻布十番を売り出すんだから『麻布十番駅』じゃないとダメだ」ってことで意思統一しましたね。だから私は麻布十番という名前にすごく愛着があるし、責任も感じています。

後藤：六本木という地名は、昔は交差点のところだけだったんです。それで、区画が小さいものだから町名変更の話が持ち上がったときに六本木商店街の人たちが視察って、かえって六本木の範囲が広がったんですよ。

原：結局ね、僕らにとってはここが生まれ故郷なんですよ。

須永：十番は今まではファミリーのイメージなんです。でもこれからは、大人の魅力や色気をにじませてもいいのかなと思います。小さくてもこだわりのある良質な店が集まっているというのも、十番のひとつの方向性かなと。

原：六本木ヒルズを作る前に、麻布十番さんから「十番のお客様がそっちに行ってしまう」という声を聞いたんです。でもそれは違っていて、ヒルズが人を集めれば十番さんにも人は流れるんです。ヒルズが完成した後、麻布十番商店街の総会に招待していただきましてね。そこで商店街の皆さんの前で須永理事長に「六本木ヒルズを作ってくれてありがとう」と言っていたら良かったです。これは本当にうれしかったです。今でも覚えていますよ。

山本：東京ミッドタウンも、六本木の地名を名前につけるかどうかで喧々譁々やりました。でも六本木ヒルズさんがすでにあってややこしいですし、住所も赤坂です(笑)。麻布十番さんと六本木ヒルズさんがよい関係を築いているように、ミッドタウンは、赤坂のほうとも街をつないでいきたいと思っています。それが実現すれば、赤坂から麻布十番までが一体となり、人が回遊するエリアができる。掛ける距離の中で、そういった形が作れたら素晴らしいですよ。「ミッドタウン」という名も生きてきますし。



地域の個性のぶつかりあいが生み出す エリアのブランド力

辻：例えば、丸の内はオフィス街といったイメージがありますよね。でも麻布・六本木エリアには、住宅もあればオフィスや商業施設もあって、美術館や映画館、文化施設もどんどん充実してくる。これだけ幅広い用途で、色々な人たちが集まる街は日本でも珍しい。

山本：新しい街と、歴史ある商店街や個性的なお店がありますからね。街の散策も、美味しい食事も、夜遅くに美術館に行くのもここならできる。文化って何か見えない力があって、やっているうちにエリアのブランドイメージができていくのではと思います。ぜひいろんな形で一緒にさせていただきたいと思っています。

原：この春は、ミッドタウンや国立新美術館のオープンです。ますます六本木が燃えるでしょうね。このエリアを銀座にも勝る、世界にも通じる街にしていきたいのが私の夢なんです。

須永：私は、たとえ世界一になったとしても、ヒルズはヒルズとしての個性を持ち、麻布十番は麻布十番として存在感がある。こういうのが面白いと思います。それぞれの個性の競い合いが、エリアの個性を育てていく、っていうのかな。そうして全体で一つのエリアになってくればお客様はすごく面白がってくれるよね。

後藤：六本木は24時間眠らない街ですから、麻布十番の商店街さんが閉まった後は、六本木が引き受けますよ(笑)。六本木は国際的な認知度は高く、集客は困らないけど、六本木で遊ぶと恐ろしいとか怖いとか、そういうことだけは行政や警察と情報交換して、ないようにしないとイケないと思っています。

辻：安全・安心な街づくりは協議会も立ち上がって、活動の輪が広がっているの、効果が出てきますよ。それぞれの地域の人がお互いの活動に参加するようになると非常にいいですよ。それには執行部もしっかりしないとイケない。

須永：麻布十番は「十番ルール」を作って、安心な街づくりに努めている。理想かもしれないが、防犯カメラなんてないに越したことはないと思っています。そのためにも、人の顔が見える街づくりっていうのは大事にしたいんです。

辻：そこに住人がいるというのが重要なんですよ。

山本：住んでいる方、関わりのある方が中心になって、愛着をもって街をよくしたいと思ってくださるから、よくなるんですよ。

辻：あとはいろんな商店街や企業が共同活動している中で、今後は知恵を出し合って、音楽でも映像でもアートでもいいんですが、何か大きなイベントをエリア全体で仕掛けていきたいですね。

原：ぜひ一緒にやっていきたい。麻布十番、それから六本木地区、みんな協力あっていい街を作っていけたらいいなと、これが今日の一番の結論ですね。

ピックアップイベント!

六本木ヒルズ 電気・熱供給施設見学会 参加者募集のお知らせ



地下に設置されているタービン

六本木ヒルズの地下で「自家発電」が行われているのをご存知ですか? 大規模コージェネレーションシステムにより、ガスで電気と熱をつくり、その熱を地域冷暖房に活用しているといふ「省エネルギーと環境性に優れたヒルズの心臓部」を見学できるチャンスです。

日時: 1/23(火) 15:00 ~ 16:30

1/25(木) 13:00 ~ 14:30

1/26(金) 10:00 ~ 11:30

申込先: 六本木ヒルズ自治会事務局 03-6406-6383

申込締切: 2007年1月19日(金)

応募者多数の場合は抽選

[TOUR INVITATION]

Sign Up for the Special Tour of the Roppongi Hills Electrical Power/Heating Plant! Did you know that there is a power generation plant on the basement level of Roppongi Hills? Using a large-scale co-generation system, it generates electrical power and heating from natural gas. The resulting thermal energy is utilized for district heating and cooling. Don't miss this chance to tour the heart of the Hills energy conservation and environment friendly policy.

Dates & Times

January 23 (Tuesday) 15:00-16:30

January 25 (Thursday) 13:00-14:30

January 26 (Friday) 10:00-11:30

Tour Applications: Roppongi Hills Neighborhood Association office 03-6406-6383

*Application Deadline: January 19 (Friday), 2007

*If applicants exceed availability, participants will be chosen in a drawing.

information

1~3月1ヶ月間カレンダー

1月15日(月) 9:30AM

六本木ヒルズ震災訓練@六本木ヒルズアリーナ
Jan 15 (Mon) 9:30AM
Roppongi Hills Earthquake Preparedness Drills
@ Roppongi Hills Arena

1月20日(土)・2月17日(土)

9:00AM 六本木クリーンアップ
Jan 20 (Sat) & Feb 17 (Sat) 9:00AM
Roppongi Clean Up

1月23日(火)・25日(木)・26日(金)

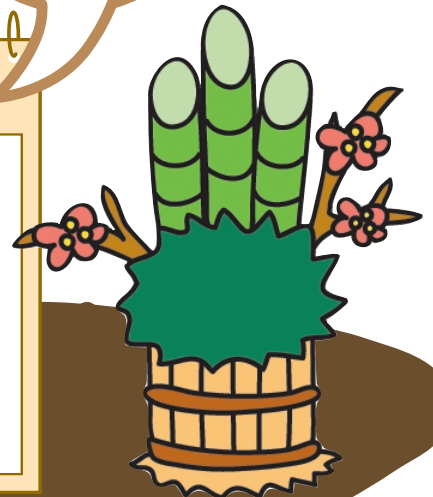
六本木ヒルズ 電気・熱供給施設見学会
Jan 23(Tue) & 25(Thu) & 26(Fri)
Roppongi Hills Electrical Power/Heating Plant Tour

2月13日(火)

理事会
Feb 13 (Tue) Regular meeting of the Board of Directors

3月末~4月上旬

六本木ヒルズ春祭り 予定
End of March- Beginning of April Roppongi Hills Spring Festival* Tentative



六本木クリーンアップ活動レポート Roppongi Clean Up Project Report

懇親会レポート

昨年12月16日(土)のクリーンアップ終了後に、1年間の締めくくりとして感謝とねぎらいの気持ちを込めた懇親会を開催し、恒例の皆勤賞の表彰も行われました。2003年12月にスタートして以来、一度も欠かさずに参加を続けるレジデンスにお住まいの佐藤宏之さんが3回目の受賞。今年はその記念としてバッジ付き特製キャップが贈られました。

Friendship Party

After the Clean Up activities on December 16 (Saturday) 2006, everyone got together for a small friendship party and the much anticipated award for perfect attendance. Hiroyuki Sato who lives in the Residence won this award for the third time! For three consecutive years since the introduction of the award in December 2003, he has never missed a Clean Up day. He was presented with a commemorative badge and a special cap in honor of his achievement. In addition to Mr. Sato, 6 other people were recognized for perfect attendance in 2006.



3年連続表彰の佐藤宏之さん。帽子の横には3年皆勤を称える3つのバッジ。4つ目獲得を目指して今年も頑張ってください!



その他2006年度の皆勤賞は、昨年に引き続き2度目の添野博さん(ハリウッド株式会社/中) 今年初めてとなる西迫如香さん(北海興業株式会社/左端、写真は代理の水野花菜さん) 吉村千栄子さん(三井住友銀行六本木支店/右2) 多田野祐子さん、山崎誠司さん(以上森ビル株式会社/左2、右端) 松本起一さん(株式会社コムスン/粹外) 1年間ありがとうございました。

六本木クリーンアップが表彰されました!!

昨年12月、六本木クリーンアップが麻布・六本木地域の防犯活動に貢献したと認められ、麻布警察署・麻布防犯協会より感謝状が贈られました。毎月たくさんの方にご参加をいただいた結果であり大変感謝しています。六本木がゴミの少ない街=犯罪の少ない街になるよう、今後も楽しくクリーンアップを続けていきましょう。

Roppongi Clean Up Project Receives Recognition & Thanks!!

In December 2006, the Roppongi Clean Up Project received a letter of appreciation from the Azabu Police Station and Azabu Crime Prevention Association in recognition of the project's contributions to crime prevention in the Azabu and Roppongi area. We would like to express our heartfelt gratitude to all the people who make time every month to participate in the project. Your efforts made this achievement possible. In Roppongi, we believe a clean town with little trash or litter leads to a clean town with little crime. With this goal in mind, let's continue to Clean Up our town. We look forward to seeing you all for a fun time at our next activity.



麻布警察署から授与された感謝状

写真を募集しています。

We're inviting readers to send us photos.

毎号の表紙を飾る写真を大募集!!

あなたのご自慢の一枚をドシドシご応募下さい、自治会事務局(森タワー8F 森ビル(株) 鈴木・中辻まで)

発行日: 2007年1月10日 隔月発行

発行: 六本木ヒルズ自治会事務局 総務厚生部

問い合わせ: 03-6406-6383

応募等: webmaster@ropponjihills.com